

赤坂清和, 竹林庸雄(監)

三木貴弘(編)

痛みの理学療法シリーズ

非特異的腰痛のリハビリテーション

評者 高崎博司

埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科

三木氏は日本の養成校で理学療法士の資格を取得した後、特に運動器理学療法分野では世界的に有名なオーストラリアカーティン大学で理学療法学部教育を再度一から受け直した新進気鋭の理学療法士です。日本とオーストラリア両国で学部教育を受けたからこそ、「日本のリハビリテーションレベルの底上げに貢献したい」、「日本人にグローバルスタンダードを紹介しなければ」という想いから本書が生まれたものと考えます。

本書は、①腰痛の疫学・バイオメカニクスの概説から始まり、②われわれが治療してよいのか、他職種との協力を仰ぐべきかの最低限の知識、③問診から客観的検査を行ううえでの見落としがちな注意点の説明、④治療戦略を決定する意思決定アルゴリズムの概説、そして、⑤動画を用いながらどのように介入するのかを丁寧に説明しています。

本書における最大の魅力の1つは、近年国際的に提唱されているBio-Psych-Socialの(生物心理社会的)側面に配慮した治療を実施するうえで最低限必要な情報を、日本語で効率よく得ることができる点にあるかと思います。この情報は、非特異的腰痛に限ったことではなく、その他の筋骨格系リハビリテーションを行う際にも必要なもので、筋骨格系リハビリテーションを行うすべての人も一読の値打ちがあるものと考えます。

第2の魅力は、非特異的腰痛のClassificationを紹介している点にあります。医学的・形態学的診断のみによってリハビリテーションの介入方法を決定することは不可能であることは臨床経験者であれば誰もが知っていることではないでしょうか。であるならば、われわれリハビリテーション実施者が介入方法を決定するための別のアルゴリズムが必要です。そのアルゴリズムの1つが、ある特定の介入に特異的に反応する者をサブグループ化するClassifi-

cationという考え方で、筋骨格系リハビリテーション領域における世界的な潮流です。整形外科医と連携するためには、当然、運動学・解剖学の深い知識は必要ですが、日本の多くの養成課程ではそこまでの教育で手一杯なためか、臨床においても漫然と運動学・解剖学のみで推測×推測を臨床推論と称し、組織診断を行って医師のまねごとをしているケースが多く見受けられます。本書はそのようなセラピストの目を覚ます起爆剤になり得ると思います。

第3の魅力は、本書では三木氏が学んだオーストラリアカーティン大学のO'Sullivan教授が提唱するClassificationを紹介している点です。日本語での細かい解説は私が知る限り、本書が初めてです。

本書はふんだんに写真やイラスト、そして、動画も収録されてわかりやすく工夫されているだけではなく、非特異的腰痛リハビリテーションのグローバルスタンダードを実施するにあたり最低限の知識を包括的に収録しているすばらしい良本です。対象は新人セラピストのみならず、学部教育、そして、最先端の研究を着想するために必要な最低限の知識をいち早く整理するという意味で、大学院教育でも使用できる一冊です。英語でしか説明されてこなかった情報をここまで日本人にわかりやすくまとめた三木氏に最大の敬意を表します。

B5判・245頁
定価：5,200円＋税
羊土社刊，2018年